

GSJ

地球をよく知り、地球と共生する

地質ニュース

2019
11
Vol.8 No.11



11月号

-
- 285 **CCOP 地質情報総合共有プロジェクトの紹介**
宝田 晋治・ジョエルバンディバス
-
- 289 **ひと目でわかる「地下水の地図」をウェブサイトで公開
—誰もが地下水の情報を閲覧できる環境づくり—**
町田 功・井川 怜欧・小野 昌彦・松本 親樹
-
- 292 **大阪平野の水文環境図と地中熱ポテンシャルマップを同時公開～大阪平野の地下水資源ポテンシャルの見える化に向けて～**
井川 怜欧・吉岡 真弓・内田 洋平
-
- 297 **産総研東北センター一般公開
—学都「仙台・宮城サイエンス・デイ 2019」—**
高橋 雅紀・シュレスタ ガウラブ・森田 啓子
-
- 301 **鹿沼土の話① —採掘から製品まで**
徐 維那・須藤 定久・高木 哲一
-
- 308 **新刊紹介 「富士山はどうしてそこにあるのか 地形から見る日本列島史」**
-
- 309 **新人紹介 クリストファー コンウェイ・金子 翔平・黒田 みなみ**
-
- 311 **受賞・表彰 北海道センターの中川 充氏が環境省第 38 回温泉関係功労者に表彰されました**

神奈川の地質と災害

【講演プログラム】

- 神奈川県での災害対策について
..... 三橋直也 (神奈川県災害対策課)
- 神奈川の大地の生い立ちから地質災害を考える
..... 平田大二 (神奈川県立生命の星・地球博物館)
- 神奈川県の液状化被害と対策
..... 若松加寿江 (関東学院大学)
- 活火山箱根の発見
..... 萬年一剛 (神奈川県温泉地学研究所)
- 神奈川県の各種の斜面災害
..... 上野将司 (全国地質調査業協会連合会)
- 神奈川県沿岸域の地震・津波痕跡からみた
関東地震の履歴と将来予測
..... 穴倉正展 (産総研 活断層・火山研究部門)
- オフ・フォールト古地震学的手法から探る
国府津 - 松田断層帯の活動履歴
..... 佐藤善輝 (産総研 地質情報研究部門)

会場：TKP ガーデンシティ横浜 ホール A
(横浜市神奈川区金港町 3-1 コンカド横浜 2F)

日時：2019年12月12日(木)
13時～17時35分(受付開始12時30分)

定員：120名(事前登録制)

主催：GSJ 国立研究開発法人
産業技術総合研究所
地質調査総合センター

共催：産業技術連携推進会議 知的基盤部会
地質地盤情報分科会

後援：神奈川県・全国地質調査業協会連合会・
神奈川県地質調査業協会

CPD：4単位(ジオ・スクーリングネット)

事前
登録制

参加費
無料

参加登録、講演の
詳細はウェブで▶

[https://www.gsj.jp/researches/
gsj-symposium/sympo32/](https://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo32/)



お問
い合
わせ

地質調査総合センター 第32回 GSJ シンポジウム事務局
✉ gsjsympo32-ml@aist.go.jp
〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第 7

[アクセス] JR・京急本線・みなとみらい線・東急東横線 横浜駅きた東口 A 徒歩 5 分

GSJ 地質ニュース編集委員会

委員長 宮地良典
副委員長 名和一成
委員 井川怜欧
児玉信介
竹田幹郎
落唯史
小松原純子
伏島祐一郎
森尻理恵

事務局

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター
地質情報基盤センター 出版室
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

GSJ 地質ニュース 第8巻 第11号
令和元年 11月 15日 発行

国立研究開発法人 産業技術総合研究所
地質調査総合センター

〒305-8567 茨城県つくば市東 1-1-1 中央第7

印刷所

GSJ Chishitsu News Editorial Board

Chief Editor : Yoshinori Miyachi
Deputy Chief Editor : Kazunari Nawa
Editors : Reo Ikawa
Shinsuke Kodama
Mikio Takeda
Tadafumi Ochi
Junko Komatsubara
Yuichiro Fusejima
Rie Morijiri

Secretariat Office

National Institute of Advanced Industrial Science and Technology
Geological Survey of Japan
Geoinformation Service Center Publication Office
E-mail : g-news-ml@aist.go.jp

GSJ Chishitsu News Vol. 8 No. 11
November 15, 2019

Geological Survey of Japan, AIST

AIST Tsukuba Central 7, 1-1-1, Higashi, Tsukuba,
Ibaraki 305-8567, Japan



北海道北東部，オホーツク海沿岸には，現在でも複数の海跡湖が存在する。網走湖と能取湖は網走市街地の北西部に位置し，特に天都山展望台からの眺望は素晴らしい。網走湖(写真中央)は縄文海進期には入り江であったと考えられるが，その後の海退によって海跡湖になったと理解されている。網走湖とオホーツク海との間では，網走川を介して毎日2往復の潮汐流が往来している。そのため現在の湖水は重くて無酸素状態の海水層と軽い河川起源の淡水層が2層構造を形成しており，その湖底には年縞堆積物が形成されている。一方能取湖(写真右奥)は季節的に湖口が閉塞される汽水湖であったが，現在では湖口が護岸されており通年を通して内湾環境にある。湖畔にはサンゴ草(アッケシソウ)の群生地が広がり，その規模が大きくなっていることが知られている。

(写真・文：産総研地質調査総合センター地質情報研究部門 七山 太)

Two sea relic lakes, Lake Abashiri and Lake Notoro, seen from Mt. Tentozan, along the Sea of Okhotsk, northeastern Hokkaido. Photo and Caption by Futoshi NANAYAMA